まえがき

.

OJTとは、Onthejob Training(実地訓練)であるから、実践してこそ意義がある。訓練ではあるが、OJTリーダーは、ツールやメソッドだけを習得させることなく、生き方や働き方を教示しなければならない。そこで、まずは看護職である前に、1人の人間として何をなすべきか、人間として必要な素養を教えなければならない。人間は決して暴力をふるってはならない。人間は嘘をついてはいけない。人間は隠しだてをしてはいけない。人間は人のものを無断で使ってはならない。この4つは人間がしてはならない4大禁忌である。

人間の素養を教えたうえで、能力を習得するために必要となる3つのことを教えの対象にする。人間は道具を使うことができる。人間は考えることができる。人間は仲間とともに目的を達成することができる。これが、能力を履修させるために必要となる要諦である。

OJT リーダーはフォロワーが実地で有効な訓練をしているかも検 分しなければならない。看護の仕事はリーダーとフォロワーが同じ時 間、同じ空間にいるとはかぎらない。

そこで、下見分、見聞および見分を検分に組み込むことが必要になる。下見分とはフォロワーが行う仕事を事前に確認しておくことをいう。見聞とは見たり聞いたりすることをいう。フォロワーの仕事振りを記録し、例えば撮影しておき、フォロワーと一緒に振り返る。見分は、実況見分という用語があるように、後で再現させるのである。

本書は、ナースの OJT について、理論と実践をまとめたものであるが、リーダーもフォロワーも、ともにナースであることに着目し、

まえがき -----i

3つのことを訴求した。1つめは、ナースの社会的役割およびチームにおける役割である。2つめは、リーダーとフォロワーが、さながらナースと患者が向き合い寄り添うごとく、向き合い、寄り添い、ともに成長していくことがOJTの肝と心である。そして3つめは、OJTリーダーが、ときには立場変容をして、もし私がフォロワーだったらという立場からOJTを考え、振り返り、不具合やつもり違いを明らかにする。

この3つの訴求はリーダーとしての役割認知と役割行動に関わるものであり、リーダーになることの意義を示したものである。

つまり、本書は、教えることは学ぶことであるという見識に基づいて、OJT リーダーの成すべきことを体系的かつ実践的に記述したものである。

著者

ii ------ まえがき

On the lob Training

成長の連鎖



人間は道具を使うことができる。技術を体得する。人間は考えることができる。知識を獲得する。人間は仲間と共に目的を達成することができる。組織の一員として行動する。人間は教えることができるし、人間は学ぶことができる。OJT 行動ができる(図表 1)。

看護師である OJT リーダー (以下、リーダー) と看護師の OJT フォロワー (以下、フォロワー) は、共感し、協働することができる。 それは、「ナース」として心と力を合わせ、看護に当たることでもある。 リーダーもフォロワーも互いにナースを職業として選択した。 双



図表 1 OJT の本質

方とも、ナースとして共にさらなる専門的な能力を開発していく責務 がある(図表2)。

図表 2 リーダー&フォロワーの役割

リーダー
・ カ示: 看護行為
・ 育成: ケアのこころ
・ モデル実践
・ 看護行為: 習得
・ ケアのこころ: 醸成

能力の開発

能力には、潜在能力および顕在能力がある。潜在能力は、保有能力ともいい、知識、技術および意欲から成り立っている。顕在能力は発揮能力であり、行動として顕在化したものである。

(1) 知識

知識とは、認識によって得られた成果や物事について抱いている考えをいう。知識は主に認識によって得られた「成果」を意味するが、認識は成果のみならず、対象を把握するに至る「作用」を含む。知識獲得には、知覚、記憶、経験、コミュニケーション、連想、推論といった複雑な認識過程が関係する。

表象化された知識を宣言的知識、行動的な知識を手続き的知識とい

う場合がある。宣言的知識は、看護論などに関する知見である。手続き的知識は、検温計や血圧計など看護に必要な器具や機材を使うための知見である。

知識は、形式あるいは伝達方法の違いから形式知と暗黙知に分類される。形式知は宣言的に記述することが可能なもの、例えば、看護手順などマニュアル化することができるものである。暗黙知は、宣言的に記述することが不可能か、極めて難しい知見のことである。

例えば、利口という言葉は誰でも分るが、明確に定義することはできない。生まれながらにして備わっている知識を「アプリオリな知識 (先天的知識)」、誕生後に社会生活などをとおして獲得する知識を 「アポステリオリな知識 (後天的知識)」と分類することもある。

読み書きができる知識 (識字力)、一般常識など社会人に求められる知識 (世間知) および看護実践に必要となる専門的知識 (実践知)などは後天的知識である。

(2) 技術

技術は、目的を達成するために用いられる手段や手法のことである。 技術者のことをエンジニアという。エンジニアリングとは、自然界の 現象を人間が手段として利用するため、道具や体系をつくる過程にお ける設計や構築の方法をいう。産業革命時代のイギリスにおいては、 蒸気機関を指した言葉であり、蒸気機関を製作、操作、修繕および維 持改良する者をエンジニアといった。

先人の編み出した技術は修業や模倣により伝承される。技術の必要 を満たすために道具が開発され、新たな道具の出現により技術が進歩 してきた。技術には技能や技の意味も含まれていて対人的および専門 的なものがある。対人的技術は、認知技能、意思伝達技術である。専